

# 日本近代文学館

題字・高見順

No.282  
2018.3.15

春季の特別展は「生誕一三五年 志賀直哉―「ナイルの水の一滴」をお届ける。

当館に一括で寄贈された「志賀直哉コレクション」の資料を中心とする初の特別展で、志賀直哉を新たな視点から描き出そうとする。

この「志賀直哉コレクション」は、志賀直哉著作権管理代表者志賀道哉氏を介して令息志賀直吉氏よりご寄贈いただいた、原稿・草稿、書簡、筆墨、写真など計一一、八八六点に及ぶものである。

その中には、以前志賀直吉氏から寄託されていた原稿・草稿など三九六点、直哉宛て書簡など五、三四〇点も含まれる。私たちは、これらの膨大な資料が当館に網羅されたことによって、志賀直哉の、文学だけにとどまらない美術や宗教、思想、哲学、民藝との一体性や直哉が与した白樺派の活動、直哉自身の交友世界といった、総合的な研

究がはじまっけていくことを期待している。

同じく「志賀直哉コレクション」として、直哉旧蔵の絵画や彫刻、工芸器皿、また衣類や日用品などを受贈した清春白樺美術館（山梨）では、昨年より白樺派をテーマとした企画展を連続して開催している。当館との連携も深め、今年も定期的に開催していくそうだ。

## □ 駒場ノート 40

### 受贈後初の志賀直哉展

坂上 弘

「暗夜行路」がなかったら近代日本の「私」の追求はどうなっていただろう。志賀直哉の文学を新たに研究し、その魅力を伝えていくのは、当館に託された大きな使命である。これから時間をかけて様々な角度から、次の世代へと志賀文学が、読み継がれていくための当館ならではの研究と展示を続けていきたい。本展の詳細については、別頁に特集を設けているのでご覧ください。

(館理事長)

## 春季展「生誕一三五年 志賀直哉―「ナイルの水の一滴」開催

三月三十一日(土) から六月九日(土)まで  
春季特別展「生誕一三五年 志賀直哉―「ナイルの水の一滴」を開催する(編集委員



日本近代文学館

「志賀直哉コレクション」より

池内輝雄、小林幸夫、中島国彦、宗像和重。

志賀直哉宛書簡から作家の人物と作品に光を当てる

第一部「志賀直哉の息吹を見つめる―志賀宛書簡を中心に」、二十五年という長期にわたった『暗夜行路』執筆の変遷と志賀自身の歩みを重ね合わせてたどる第二部『暗夜行路』クロニクル」、現在の教科書で最も掲載されている志賀作品を深く知る第三部『十代にいのちを伝える―「城の崎にて」』。これら三つの視点から、新たな志賀直哉像を紹介していく。

図録も制作し、「志賀直哉コレクション」の貴重な原稿、手帳、書簡、写真など資料図版を多数掲載。阿部公彦、絲山秋子、高橋睦郎各氏による特別寄稿も収録する(B5判、48頁、税込八六〇円)。

観覧料三〇〇円。中学・高校生一〇〇円。

↓6・7面に展示紹介

## 今月の一枚



夫婦雛(色紙) 滝田栲陰  
大正14年3月1日

駒場ノート	受贈後初の志賀直哉展	坂上 弘
文学の風景	「白蓮華」批判	植木 雅俊
わたしの蔵書から	「世界の見立て方」をインストールする読書	星 泉
文庫・記念館	日仏会館図書室	清水 裕子
春季特別展	生誕135年 志賀直哉―「ナイルの水の一滴」	
3.11文学館からのメッセージ	震災を書く 見えない悲しみ	奥野 修司
駒場の四季	東京の坂道を歩く一講座「資料は語る」に寄せて	池内 輝雄
資料でたどる文学館の歩み②	1968年 開館2年日	
図書・資料受入れ報告		
所蔵資料研究―作家の手紙	島崎藤村関連書簡から	